

## 4 各部の活動内容

### ■呼吸器科

#### ○呼吸器科の現状

##### 〈入院患者内訳〉

08年度の入院患者内訳は、肺炎214名、睡眠時無呼吸症候群検査入院120名、肺癌84名、気管支喘息118名、COPD202名、間質性肺炎40名、肺結核後遺症35名、器質性肺炎38名、膿胸（胸膜炎）30名、非結核性抗酸菌症は5名です。07年度に比較し、COPDが増加しており、肺結核後遺症は減少傾向です。COPDについては喫煙と関連する慢性呼吸不全症例の増加と考えられ、肺結核術後後遺症の減少については患者の高齢化に伴う自然減が考えられます。また、患者の高齢化は退院後の生活支援としても積極的な介入を必要としています。

##### 〈在宅酸素療法（HOT）〉

08年度のHOT導入例の内訳は酸素濃縮器が12名、液体酸素が12名です。07年度に比較し、HOT導入総数は横ばいですが、液体酸素導入症例が増加しています。液体酸素の子器は軽量で携行しやすいのが要因と考えられます。09年度には最大酸素流量が6Lまで可能な子器が適応可能となり、更なる使用拡大が予想されます。

##### 〈気管支内視鏡〉

気管支内視鏡検査は、気管支鏡21名中、TB L B 3名でした。症例数が限られている原因として、肺癌患者の検査がほとんどないこと、び慢性肺疾患の場合、VATS（胸腔鏡下手術）を適応することが多いことなどが挙げられます。病棟での使用が12名です。気管内挿管時や吸痰目的の使用が目立ちます。

##### 〈禁煙外来〉

禁煙外来の実績としては、10名が受診し（全て保険適応患者でした）、8週間の治療を終了できた患者は5名でした。治療完了できなかった中には精神疾患治療中の患者、ストレス状態下での受診患者が含まれます。禁煙治療における患者の精神状態へのアプローチが重要と考えられます。全症例、ニコチネルTTS（ニコチンパッチ）を処方しました。08年度から内服タイプの禁煙補助薬が適応となりましたが、副作用の問題（自殺願望、精神症状の悪化）から、慎重な検討が必要と考えます（現時点では当院では採用していません）。

#### ○無呼吸症候群（睡眠呼吸障害）

##### 学会活動

2008年2月

札幌市医師会医学会にて発表。

「閉塞型睡眠時無呼吸症候群におけるメタボリックシンドローム合併の検討」

2008年4月

睡眠時北海道睡眠研究会にて発表。

「閉塞型睡眠時無呼吸症候群における睡眠体位と呼吸障害出現についての検討」

2008年6月

日本睡眠学会学術集会にて発表。

「閉塞型睡眠時無呼吸症患者における高感度CRPの検討（第1報）」

2008年度に実施した睡眠ポリソムノグラフィー検査は120件で前年度よりわずかに減少しています。CPAP治療の新規導入および他院からの転院を合わせると59件でしたが、一方、2008年度は、当院から他院への転院とCPAP治療中止例が多く、全体の症例数はほぼ前年並みとなりました。昨年同様に全国の睡眠時無呼吸症候群診療施設から紹介を頂いております。

文責 原田 尚雄  
大久保敏彦